

令和 6 年第 4 回川本町議会定例会

町長行政報告

川 本 町

■行政報告の主な内容（２９項目）■

諸般の事項

- ・ 因原地区での消防活動 1
- ・ 治水対策の推進 1
- ・ 女子野球で繋がるプロジェクト 2
- ・ 立地適正化計画の策定 3
- ・ 医療・介護・福祉サービスの強化 4
- ・ 令和７年度の予算編成方針 4

住み慣れた地域の暮らしが持続するまち

- ・ 移住・交流の推進 6
- ・ 健康づくり 6
- ・ 社会福祉法人との連携 7
- ・ 公立邑智病院の新本館竣工 8
- ・ 物価高騰対応定額減税調整給付金 8

暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くまち

- ・ 米の作柄 9
- ・ 担い手対策 9
- ・ 特産品の振興 10
- ・ 有害鳥獣対策 11
- ・ 物価高騰対策 11

・ 商工業の振興	12
・ 中小企業の設備投資の促進	12
・ 観光の振興	13
・ 姉妹都市交流	14
・ 誘致企業との連携	14

子ども達の夢を育み、挑戦する人材が育つまち

・ 町立学校建設検討委員会	15
・ 学校教育	16
・ キャリア教育の推進	16
・ ふるさと人づくり推進事業	17
・ 公民館活動	18
・ 社会体育	18
・ 文化振興	19
・ 島根中央高校の魅力化支援	19

すべての住民が、安心して暮らせるまち

・ 11月豪雨への対応	21
-------------	----

効率的な行財政運営の推進

・ デジタル化の推進	22
・ 郡内3町合同職員研修会	22
・ 広報・広聴	23
・ ふるさと納税	23

令和6年第4回川本町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、万障お繰り合わせのうえ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

開会にあたり、諸議案の説明に先立ちまして、諸般の事項についてご報告申し上げます。

(因原地区での消防活動)

はじめに、先の因原地区での消防活動について申し上げます。

火災に対応するために出動した消防団員1名が、強い使命感のもと、その責務を全うし、尊くも犠牲になりました。

このような事態となったことは痛恨の極みであり、あらためまして、心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、その使命感と勇気に対し、衷心より敬意と感謝を表します。

町としましては、この尊い犠牲を無にすることなく、そのご遺志に応えるため、江津邑智消防組合、消防団と一丸となって、消防活動時の安全対策、さらには、安全で安心なまちづくりに、全力を尽くしてまいります。

(治水対策の推進)

次に、治水対策の推進について申し上げます。

10月22日に、県及び県議会に対して、川本堤防の完成堤防化に必要な堤防断面の確保や治水対策予算の確保などを掲げ、来年度に向けた重点要望を行いました。

また、11月5日には、町単独で浜田河川国道事務所へ、11月28日には、植田議長とともに国土交通省水管理・国土保全局の河川計画課長及び治水課長へ、要望いたしました。

対策の進捗状況ですが、「瀬尻・久料谷」地区では、国事業として、引き続き国道261号迂回路及び護岸工事が行われております。

「谷」地区では、国事業として、用地幅杭の設置測量が、県事業として、護岸及び盛土造成工事が行われております。

また、県・町事業として、矢谷川上流左岸部の先行整備エリアにおける、用地取得・物件補償が進む中、11月24日には、地元の治水事業推進協議会の主催で、工事が安全に完遂するよう着工式が執り行われました。

引き続き、国・県、地元協議会の皆様と緊密に連携し、一刻も早く事業が完成するよう、取り組んでまいります。

(女子野球で繋がるプロジェクト)

次に、「女子野球で繋がるプロジェクト」について申し

上げます。

11月3日に催された産業祭のステージ企画として、一般社団法人全日本女子野球連盟による、山陰では初めて、全国では17番目となる「女子野球タウン」の認定調印式を行いました。

来春発足予定の女子硬式野球クラブ「島根フィルティーズ」につきましては、初年度より単独チームで、大会に出場できる体制が概ね整ったことから、現在、選手の住居や活動拠点の確保、さらには、広告協賛いただける事業所を募集しているところです。

また、チームの練習候補地の一つとしていた、川本西グラウンドについては、来年度から実際に練習を行った上で、優先的に行う改修等を判断することとし、県市町村振興協会からの「新たな移住・定住推進プロジェクト補助金」を活用して、今年度予算に計上している該当の改修費用を、減額する補正予算案を本議会に提案しております。

引き続き、受け入れ主体となる「かわもと暮らし」を中心に関係者等と連携を図り、準備を進めてまいります。

(立地適正化計画の策定)

次に、立地適正化計画の策定について申し上げます。

10月2日に開催した、今年度2回目の計画策定検討

委員会では、これまで頂いたご意見を踏まえてお示しした計画の素案について、幅広くご意見を頂戴したところ
です。

今定例会の全員協議会におきまして、計画案をご説明し、ご意見等を頂戴したうえで、1月に予定するパブリックコメント等を経て、今年度中の策定を目指してまいります。

（医療・介護・福祉サービスの強化）

次に、医療・介護・福祉サービスの強化について申し上げます。

9月末に着工された、社会医療法人仁寿会・加藤病院による「地域総合ヘルスケアステーションかわもと施設群」の新築移転整備に向けましては、令和8年春の竣工を目指して、順調に進捗していると伺っております。

引き続き、町として支援するとともに、町民の皆様が、主体的に健康づくりや介護予防に取り組むことができる仕組みづくりや、ニーズに沿った医療・介護サービスが提供できるよう連携を図ってまいります。

（令和7年度の予算編成方針）

次に、令和7年度の予算編成方針について申し上げます。

編成にあたっては、「第6次総合計画」に基づき、持続可能な税源涵養に資する、少子化対策や人づくり、新しい人の流れづくりをはじめとする人口減少対策等に取り組む必要があります。

そして、DXの推進などにより個性を生かした地域づくりに取り組むとともに、公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の除却や長寿命化を積極的に推進する必要があります。

また、令和5年度から本格化した治水対策をはじめ、今後見込まれる大型事業による財政負担を見据え、既存事業の廃止・見直しなどの総点検を実施し、進捗状況を定期的に確認していく必要があります。

こうした基本的な考え方のもと、総合計画に掲げた重点プロジェクトの目標達成に向けて、令和7年度予算を編成していくこととしております。

それでは、町行政の主な動きにつきまして、順次ご報告申し上げます。

まず、

「住み慣れた地域の暮らしが持続するまち」に関する動きについてであります。

(移住・交流の推進)

はじめに、移住・交流の推進について申し上げます。

9月2日に、Uターンの促進を目的として中学校で開催された「夢と可能性に挑戦する人財定住助成事業発表会」では、島根中央高校の3年生5名が、町内で活躍する自らの将来像を掲げながら、目標を発表しました。

また、卒業生との関わりにつきましては、9月7日に、マツダスタジアムで開催された市町村PRイベント「カープわがまち魅力発信隊」に、大学生等3名が、10月19日に、東京で開催された「しまね移住フェア」に、大学生等3名が、それぞれボランティアとして参加し、ともに町をPRすることで、つながりを深めました。

移住相談イベントにつきましては、9月21日に、東京で開催された「ふるさと回帰フェア2024」では、12組の相談を受け、また、10月19日に、同じく東京で開催された「しまね移住フェア」では、22組の相談を受けております。

こうしたイベント等において面会した移住相談者へ、アフターフォロー等で対話を続けながら、町への移住促進につなげてまいります。

(健康づくり)

次に、健康づくりについて申し上げます。

11月10日に、三原まちづくりセンターで開催された「川本北地区農業収穫きんさい祭」に併せて、健康づくり事業として、四季折々の町の魅力と運動の楽しさを感じていただく「かわもとウォーキング」を開催しました。

株式会社三協本社日の出工場の皆様を含め、大人30名、子ども9名の参加があり、多くの皆様が、晴天にも恵まれた中、爽やかな晩秋の三原路を満喫いただきました。

（社会福祉法人との連携）

次に、社会福祉法人との連携について申し上げます。

11月17日に、このたび創設50周年を迎えられた社会福祉法人川本福祉会による、記念祭が開催されました。

昭和49年1月に設立され、川本保育所で保育事業を始められてから、養護老人ホームの運営、介護保険制度の制定に伴い、特別養護老人ホーム、在宅介護支援と、時代の変化に合わせて事業を拡大し、子どもからお年寄りまでを対象に、本町の福祉の担い手として取り組んでこられました。

これまでの活動に対し、役職員の皆様に、あらためまして、敬意を表し感謝を申し上げます。

今後も、川本福祉会と一層連携して、町民の皆様が安心して暮らせる福祉環境を提供してまいります。

（公立邑智病院の新本館竣工）

次に、公立邑智病院の新本館竣工について申し上げます。

令和４年１１月に着工した、公立邑智病院の本館棟建替について、このたび新本館棟が竣工し、９月２８日に記念式典が開催されました。

特徴として、診療の動線が良く、落ち着きのある空間を確保し、医療ＤＸで待ち時間の解消やロボットも巡回させるなど、地域の皆様の健康増進につながる、デジタル技術が取り入れられています。

今後は、新館棟及び別棟の改修工事が行われ、令和７年中に、グランドオープンが予定されています。

（物価高騰対応定額減税調整給付金）

次に、物価高騰対応定額減税調整給付金について申し上げます。

８月１９日から開始し、１１月末時点において、確認書が返送された９６１名への支給が完了しています。

つづいて、

「暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くまち」に関する動きについてであります。

(米の作柄)

はじめに、米の作柄について申し上げます。

令和6年産米の県の作況指数は、石見部は「やや良」となり、作付面積は約98ヘクタールで、昨年度比、約2ヘクタールの減少となりました。

品質につきましては、今年度も高温障害が発生しましたが、JA島根おおち川本支店管内の1等米比率は77.0%で、昨年の76.7%を上回りました。

また、「きぬむすめ」につきましては、出穂が遅いため、「コシヒカリ」と比較して、1等米比率が87.3%となっています。

(担い手対策)

次に、担い手対策について申し上げます

地域計画の策定に向け、県西部農林振興センター県央事務所、JA島根おおち地区本部の協力も得て、中山間地域直接支払事業に取り組む集落との間で、現状・課題を把握し、農業振興の方向性を共有しながら、意見交換を重ねています。

引き続き、新たな担い手の募集活動を進めるため、地域おこし協力隊制度などを活用した農業支援策を検討してまいります。

また、令和２年度から花き栽培に取り組む新規就農者は、令和７年度末に５年間の支援期間が終了しますが、栽培技術を習得しながら徐々に経営面積を拡大しています。

畜産に取り組む就農者が進めている牛舎の新築は、概ね計画どおり進捗しており、年内に完成する予定となっています。

こうした新規就農者が順調に営農できるよう、引き続き、県西部農林水産振興センター県央事務所やＪＡ島根おおち地区本部と連携して、経営・技術等を支援してまいります。

（特産品の振興）

次に、特産品の振興について申し上げます。

戦略的ブランドであるエゴマにつきましては、１１月末現在で、４４件、約１５ヘクタールの作付け申請があり、昨年度と比較して、約１ヘクタール減少する見込みです。

収量につきましては、今年度より収穫期の異なる品種を栽培し、生育も良好でしたが、鳥害の影響もあったこ

とから、昨年度並みとなる見込みです。

（有害鳥獣対策）

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

11月20日に三原地区で、21日に田窪地区で開催した、有効な電気柵の設置方法などの講習会には、延べ30名に参加いただきました。

引き続き、被害の防止・軽減を図るために、地域の皆様とともに試行錯誤しながら、効果的な対策を検討してまいります。

また、サルを対象に実施しているICTを活用した有害鳥獣対策事業につきましては、計画的な個体数の管理に向け、11月に行った群れの個体数調査に基づき、大型捕獲檻の設置場所の選定を進めており、準備が整い次第、捕獲を開始する予定です。

なお、クマの目撃情報が増加するなか、これまで被害の報告はありませんが、継続して注意喚起を行うとともに、頻繁に出没する地域につきましては、県や猟友会と連携し、捕獲も検討してまいります。

（物価高騰対策）

次に、物価高騰対策について申し上げます。

国の臨時交付金を活用して実施した「物価高騰対応商

品券」につきましては、10月末に完了し、利用額1,784万6千円、利用率98.2%となり、町内消費の拡大へとつながりました。

依然として物価高騰の影響が続いており、今後も、国や県の動向を注視し、必要な施策の検討を進めてまいります。

（商工業の振興）

次に、商工業の振興について申し上げます。

電子決済アプリ「Jコインペイ」を活用した「まげなポイント」につきましては、対象店舗における決済金額に対し20%、1人あたり上限5,000円分のポイント付与を10月末で終了し、期間中の付与総額は約209万円となり、556名の方に利用いただきました。

また、町内新規登録者には年末まで、健康診断・がん検診受診者には1月末まで、ポイントを付与いたします。

今後も電子決済の活用を含め、地域経済を活性化する取組を検討してまいります。

（中小企業の設備投資の促進）

次に、中小企業の設備投資の促進について申し上げます。

エネルギー価格や資材費の高騰等により、中小企業を

取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあります。

このため、県企業立地促進条例に基づいて、町内に進出した雇用創出力の高い企業が、生産性向上をはじめとする、魅力的な事業環境を構築しようとする際の、経費の一部を補助するために必要な補正予算案を、今議会に提案しております。

（観光の振興）

次に、観光の振興について申し上げます。

1 1 月 3 日に開催された産業祭は、天候にも恵まれ、町内外から来場された多くの方々と賑わい、盛況となりました。

開催にあたって、ご尽力いただいた実行委員会の皆様をはじめ、各事業所、団体等の皆様に、あらためまして感謝申し上げます。

また、1 1 月 8 日・9 日に催された、旧 J R 石見川本駅の開通 9 0 周年を記念するイベントでは、鉄道部品や懐かしい写真の展示のほか、レールバイク乗車体験などが行われ、旧 J R 三江線運行当時の思い出を振り返る鉄道ファンで賑わいました。

併せて、1 1 月 9 日には、旧 J R 三江線でのみ採用された「目の字形ラーメン橋」という極めて珍しい構造物であることが確認された、因原の志谷川橋梁と日向の日

向川橋梁が、公益社団法人土木学会による選奨土木遺産に認定されたことに伴う、認定証の授与式も行われました。

10月27日には、平成30年度から継続されてきた、レールバイク乗車体験が3千名を突破したこともあり、今後も、観光協会と連携して、鉄道資産を活用した、本町ならではの観光誘客の促進に取り組んでまいります。

(姉妹都市交流)

次に、姉妹都市交流について申し上げます。

11月17日に、姉妹都市縁組を結ぶ広島県坂町において開催した「坂町・川本町特産品フェア」では、多くの方々に、出品したエゴマ、鴨、杵つき餅などをお買い求めいただき、町への期待なども寄せられました。

今後も両町の絆が深まるよう、各分野での交流を促進してまいります。

(誘致企業との連携)

次に、誘致企業との連携について申し上げます。

このたび、丸山県知事が、株式会社三協島根川本工場と静岡県富士市の本社日の出工場を、それぞれ訪問されました。

10月8日の島根川本工場への訪問では、強みとされ

る自社開発の先端設備等による生産ラインを視察されました。

続く、10月18日の本社日の出工場訪問では、石川社長との間で、人材の確保に向けた今後の取組などについて、和やかに意見交換が行われました。

今後も、県と連携し人材確保を支援していくとともに、石川社長をはじめとする役職員の皆様との交流を図ってまいります。

また、毎年寄贈いただいております河津桜の今後の植栽候補地につきましては、公園整備予定地の近隣とすることとし、現在、協議を進めているところです。

今年度の植栽予定地の樹木伐採に必要な経費を盛り込んだ補正予算案を本議会に提案しております。

つづいて、

「子ども達の夢を育み、挑戦する人材が育つまち」に関する動きについてであります。

(町立学校建設検討委員会)

はじめに、町立学校建設検討委員会について申し上げます。

9月30日に、第1回検討委員会を開催し、これまで

の経緯や今後のスケジュール案などをお示ししながら、委員の皆様と意見交換いたしました。

今後は、町民の皆様のご意見を伺う機会を持ちながら、目指す学校像を共有し、基本構想・基本計画を策定してまいります。

（学校教育）

次に、学校教育について申し上げます。

中学校では9月21日に体育祭が、10月26日に文化祭が、そして小学校では10月5日に運動会が行われ、児童生徒は、それぞれ日頃の活動の成果を発揮し、主体性を持って取り組むことができました。

また、中学2年生の修学旅行は、10月2日から2泊3日で関西方面へ出かけ、充実した活動ができました。

部活動においては、各部とも1・2年生主体へと変わる中で、吹奏楽部は、3年生最後の大会として、11月2日に、東京都で開催された日本管楽合奏コンテスト全国大会に出場し、中学校A部門で優秀賞に輝きました。

（キャリア教育の推進）

次に、キャリア教育の推進について申し上げます。

中学校では、10月2日・3日の二日間にわたり、町内16事業所にご協力をいただき、3年生が、社会の一

員としての自覚と、望ましい社会性や勤労観・職業観を身に付けることとなる、職場体験活動を実施しました。

また、11月7日に実施した、2年生と地域の大人との対話活動「かわもと一く」には、町内在住や在勤の19名の方々に参加いただき、お互いの人生グラフを基にした、1対1の対話活動が展開されました。

普段は家族以外の大人と話すことがほとんどないという生徒もあり、はじめは緊張した様子でしたが、大人のリードで次第に打ち解け、笑顔で対話が進むなど、地域の大人との関わりのなかで自分自身を見つめ、ふるさとへの理解と愛着を深める機会となりました。

次回は12月11日に、小学生と島根中央高校生との対話活動を予定しています。

（ふるさと人づくり推進事業）

次に、ふるさと人づくり推進事業について申し上げます。

教育委員会が委託事業として実施する、中高生の放課後の居場所や地域活動の支援を行う「かわもとあそラボ」は、11月1日に、くにびきメッセで開催された「しまね教育の日フォーラム」と、11月15日に、県民会館で開催された「しまねの人づくり大交流会」において、実践発表を行いました。

実際に、あそラボを拠点に活動している高校生も登壇し、それぞれの思いや体験を、自分の言葉でしっかりと伝える様子は、会場の関心を集めていました。

（公民館活動）

次に、公民館活動について申し上げます。

中央公民館の活動である「悠々大学」は、50歳以上の方々を対象に、大人の学びの場として年間8回開催しています。

第3回目の9月18日には、SDGsをテーマとして、江津市にある再生可能エネルギー施設の見学を行い、今後は、座学や体験活動を取り入れながら、2月の修了式に向けて活動を進めてまいります。

（社会体育）

次に、社会体育について申し上げます。

10月12日に、県スポーツ・レクリエーション祭の一環として、かわもとスポーツクラブ主催の「スポレク広場 in かわもとまち」が開催されました。

また、11月9日に開催した、一周駅伝大会では、一般の部、自治会の部、合わせて13チームにより健脚が競われました。

昨年に引き続き、株式会社三協から2チーム出場いた

だき、この大会に合わせて来町され、総括監督役も担われた石川社長の鼓舞のもと、本社日の出工場Aチームが、2位となった島根中央高校Aチームとゴール直前までデッドヒートを繰り広げ、3位に入賞されるなど、大いに盛り上げていただきました。

（文化振興）

次に、文化振興について申し上げます。

9月15日に開催した「大衆演劇 宝海(たかみ)劇団 川本公演」には約360名、9月22日に開催した「0歳から聴けるホルンの調べ～福川伸陽（ふくかわ のぶあき）ホルンリサイタル～」には約130名の来場がありました。

また、9月29日には、令和元年以来5年ぶりに「神楽共演大会」が開催され、会場の悠邑ふるさと会館は多くの来場者で賑わいました。

（島根中央高校の魅力化支援）

次に、島根中央高校の魅力化支援について申し上げます。

カヌー部は、10月に佐賀県で行われた国民スポーツ大会に出場し、男子カヤックペア200メートル、男子カヤックフォア200メートル及び500メートルに

において優勝し、他の種目でも入賞するなど健闘しました。

また、10月8日に、美郷町でカヌー部の新しい練習場としての使用も計画して整備された「カヌーパークみさと カヌーレIMA I」が竣工したことにより、より充実した練習環境が整いました。

吹奏楽部では、10月13日に、広島県で開催された中国ユース音楽コンクール「管楽器部門」木管楽器の部で、川本中学校出身の1年生、服部永和（はっとり とわ）さんが最優秀賞を受賞し、3月に東京で開催される全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテストへの出場が決まりました。

このたび初めて開催した、自然や文化に溢れた魅力ある地域で、立場や世代を超えた多様な人々との交流を通じて、個性と自立心を育む「地域みらい留学」の短期越境プログラム「地域みらい旅」には、全国から9名の参加がありました。

また、県内外の高校へ送り出した4名の生徒が、地域・学校の壁を超えた、多様な高校生活を過ごしています。

引き続き、学内に留まらない多様な体験機会の創出等、地域との協働による魅力化に取り組んでまいります。

次に、

「すべての住民が、安心して暮らせるまち」に関する施策についてであります。

（１１月豪雨への対応）

先の１１月豪雨への対応について申し上げます。

１１月１日午後からの降雨により大雨警報が、とりわけ、上流域での激しい大雨の影響により江の川が増水したことに伴い、２日深夜には洪水警報が発令されました。

国土交通省浜田河川国道事務所川本出張所の迅速な対応により、因原第１、第２樋門に排水ポンプ車が配備され、内水被害を抑えることができました。

一方で、出水期を過ぎての季節外れの大雨のため、久座仁地区の排水ポンプを撤去していたことや、因原地区の町常設排水ポンプが即座に稼働しなかったことから、消防団に出動を求め、排水作業にご尽力いただきました。

幸い被害がなく、関係者の迅速、的確な対応に、深く感謝申し上げます。

常設ポンプについては、出水時に排水機能が十分に発揮されるよう、点検、動作確認に努めてまいります。

つづいて、

「効率的な行財政運営の推進」に関する施策についてであります。

(デジタル化の推進)

はじめに、デジタル化の推進について申し上げます。

9月4日、10月11日に、デジタルデバイド対策として、スマートフォン活用講座を開催し、計15名の方に参加いただきました。

今年度から取り組んでいる「K i n t o n e (キントーン) を活用した業務改善プロジェクト」では、11月19日に、プロジェクトメンバーが作成したシステムの成果報告会を開催しました。

これまで16のシステムが開発され、今後、これらを本格的に運用するとともに、引き続きシステム化が必要な業務の洗い出しを行ってまいります。

国が示した「自治体情報システムの標準化・共通化」については、令和7年度末までに移行できるよう邑智郡総合事務組合と共同し、引き続き取り組んでまいります。

また、この移行に伴う経費増については、引き続き、国からの支援を求めてまいります。

(郡内3町合同職員研修会)

次に、郡内3町合同職員研修会について申し上げます。

10月9日に悠邑ふるさと会館において、郡内3町及び邑智郡総合事務組合の職員を対象に、地域活性化セン

ター常任顧問の椎川忍氏を招き、合同研修会を開催し、62名が受講しました。

県総務部長などを歴任された椎川氏は、総務省官僚時代に、地域おこし協力隊制度の創設を主導されるなど、全国の過疎地域の実情に詳しく、「現場主義とチャレンジ精神」などをテーマに、現在の自治体職員に求められる心構え、姿勢について講義いただきました。

（広聴・広報）

次に、広聴・広報について申し上げます。

12月3日に、三原まちづくりセンターで開催した今年度3回目となる「まちづくり意見交換会」には、21名が参加され、「河津桜公園」「子育て支援・教育」のテーマに対し、幅広い世代から今後の参考となる様々な意見をいただきました。

（ふるさと納税）

次に、ふるさと納税について申し上げます。

11月末時点の寄附金額は、前年同期と比べて、15.1%減、977万2千円となっております。

例年12月は、全国的に寄附額が増加する傾向にあるため、町の魅力を発信し、より多くの方々からの寄附を受けられるよう取り組んでまいります。

(提出議案等)

今定例会に提案しました案件は、条例案件 2 件、予算案件 3 件、人事案件 2 件、その他案件 2 件であります。

後ほど、担当課長から、これらの説明をさせますので、何卒よろしくご審議のほど、お願い申し上げまして、行政報告とさせていただきます。